

思春期やせ症の (神経性食欲不振症) 予防と早期発見のために

目次

思春期やせ症とは	1
拒食の引き金	2
飢餓による臓器障害	2
拒食のもたらす危険な悪循環	2
思春期やせ症の早期発見と診断	3
診断基準	4
入院と適応	5
治療の4本柱	5
病状による分類	5
治療の3つの山と谷	6
長期的見通しと治療のゴール	6



思春期やせ症とは…

心のストレスをストレスとして感じ悩むかわりに、「食べる」「食べない」というこだわりや行動に置きかえて解消しようとする病気を摂食障害といいます。

思春期やせ症は摂食障害の代表です。その人の体をこわし、人生を孤独な苦しいものにします。悩みを感じ、誰かと分かちあうことができなくなるので、心の成長障害にもおちいります。予防と早期発見が大切です。

食べること、食べないことにこだわり、心のストレスを発散する病気には、思春期やせ症（神経性食欲不振症 俗に拒食症）の他に過食症（やけぐいでストレスを発散、無茶食いや嘔吐）や発達性肥満（食べてうさばらしや寂しさを紛らわす）があります。

最近、子どもの思春期やせ症と過食症が急増しています。中学生女子だけでなく、小学生や男子にも増えています。

思春期やせ症

死亡率の高い思春期の心身症

元気がうに見えても... 体は冬眠状態

私には平気なのに... 病気のない状態

思春期やせ症

冷たい手は温めない体に触れよう!

発見できる!

増えない体重は病気の始まり

成長曲線をつけよう!

1

思春期やせ症の予防と早期発見のために

拒食の引き金

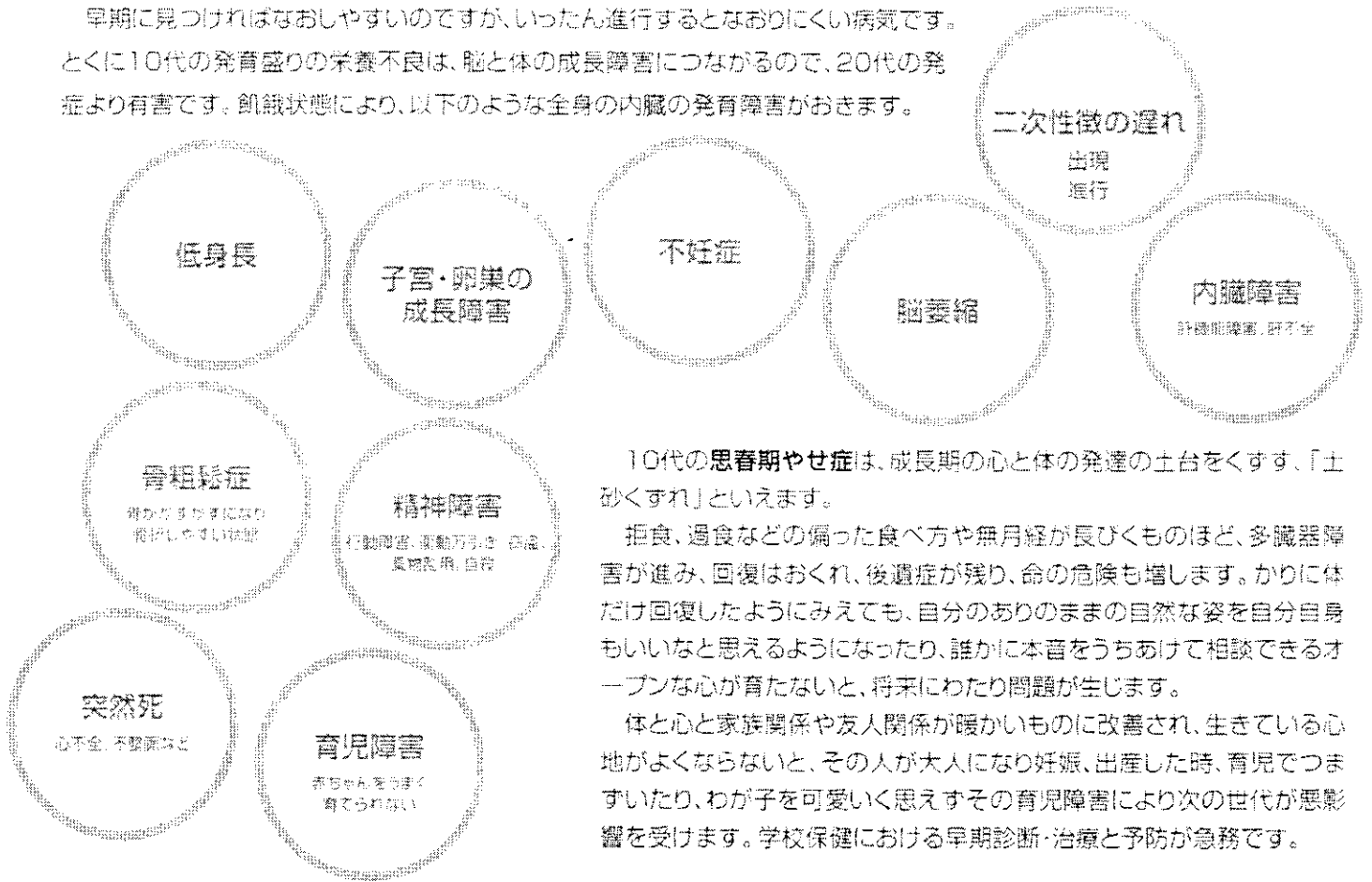
思春期やせ症の
予防と早期発見のため

思春期やせ症は、「デブ」といわれて傷ついてダイエットをはじめたり、受験、家族の病気や死亡、両親の離婚、転居などのストレス、隠された幼児期の性的虐待のトラウマなど、幅広い原因が引き金となって生じます。

飢餓による臓器障害

思春期やせ症の
予防と早期発見のため

早期に見つければなおしやすいのですが、いったん進行するとなおりにくい病気です。とくに10代の発育盛りの栄養不良は、脳と体の成長障害につながるため、20代の発症より有害です。飢餓状態により、以下のような全身の内臓の発育障害がおきます。



10代の思春期やせ症は、成長期の心と体の発達のをくす、「土砂くずれ」といえます。

拒食、過食などの偏った食べ方や無月経が長びくものほど、多臓器障害が進み、回復は遅く、後遺症が残り、命の危険も増します。かりに体だけ回復したようにみえても、自分のありのままの自然な姿を自分自身もいえないと思えるようになったり、誰かに本音をうちあけて相談できるオープンな心が育たないと、将来にわたり問題が生じます。

体と心と家族関係や友人関係が暖かいものに改善され、生きている心地がよくなると、その人が大人になり妊娠、出産した時、育児でつまずいたり、わが子を可愛く思えずその育児障害により次の世代が悪影響を受けます。学校保健における早期診断・治療と予防が急務です。

思春期やせ症の
予防と早期発見のため

拒食のもたらす危険な悪循環

思春期やせ症は、幼い頃から敏感で、人目を気にし、まわりに気を使いすぎる子になりやすいようです。思春期に何らかのストレスで食が細りやせても、周囲があまり心配しません。逆にスリムなとほめたりして、気づかぬうちに飢餓状態におちいります。すると飢餓のストレスにより脳内にベータ・エンドルフィン(脳内麻薬のひとつ)が分泌します。これは眠りを浅く短くし、活動性を高めて、一見元気そうにみせます。成績があがることもあり、本人、家族や

周囲は、前よりよくがんばって素晴らしいと錯覚します。その間に、胃袋は縮み、空腹感はわかず、食物が入らず、飢餓状態は進みダイエットハイ(やせによる快感)になります。次第に脳は萎縮し、判断力が失われ、生命の危険が高まり、自力の回復は困難になります。やせ細り弱まった体には不整脈や、電解質異常などが発生し、思春期の女子患者の10%から20%が死亡します。また「長期予後」としては、発症後20年間に20%が死亡します。

●成長曲線を作ろう

自分の小さい頃からの身長と体重ののびを、下の成長曲線に記入して、自分の成長曲線を見てみよう。

体重は横ばい、それとも低下はしていないか？
成長曲線の上昇カーブからはずれていないか？

女子
1~19歳

